令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人しろね福祉会

特別養護老人ホームしなの園
老人デイサービスセンターしなの園
老人介護支援センターしなの園

令和３年度事業報告

＊＊＊＊＊＊　目　　次　＊＊＊＊＊＊

第１．沿革史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1-2

第２．総務部門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

第３．介護老人福祉施設事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-5

第４．短期入所生活介護事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6-7

第５．通所介護事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8-9

第６．居宅介護支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10-11

第７．社会福祉法人しろね福祉会（管理運営部門）

１．理事会・評議員会の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・　12

２．防災訓練実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13

３．研修参加の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14

４．実習生受け入れ状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15

５．事故、苦情発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15-16

６．ボランティア受入状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16

第１．しなの園沿革史（令和３年度）

月	日	動　　き
4	1	辞令交付式、永年勤続表彰式(20 年勤続 2 名、10 年勤続 1 名)
	6	疥癬発生報告（新潟市保健所）
	6～15	春の交通安全運動
	13～14	正面玄関外壁補修工事
	15	イオン黄色いレシート贈呈式（電気ポット等購入）
	21	評議員選任解任委員会
	30	介護職員（正職）1 名退職
5	6～	全職員（委託業者含む）新型コロナウイルスワクチン接種意向確認
	13	冷温水発生機修理
	24	会計監査資料事前確認（小柴監事）
	25	監事監査（9:00～）
	27	冷却塔配管修理
	31	居室照明入替工事（蛍光灯→CCFL 照明：抗菌機能付き）
6	1～	新型コロナウイルスワクチン接種開始（利用者、職員）全 2 回接種
	7	新潟市へショートステイの特養転換申請書類提出
	8	第 1 回理事会
	16～	職員（特養 CM）1 名、体調不良のため休職
	22	第 1 回評議員会、第 2 回理事会
7	15	第 1 回防災訓練
	16	職員（正職）1 名採用（特養 CM）
	26	職員（パート）1 名採用（洗濯）
	28	特養利用者結核検診（レントゲン車にて）
	30	特養利用者結核検診（新潟白根総合病院）
	30～31	全館ワックス清掃
	31	DS 看護職員（パート）、特養介護職員（パート）　各 1 名退職
8	14	庄瀬農村公園祭り花火大会（約 10 分の打ち上げ）
	18	職員家族、新型コロナウイルス感染。保健所の指示により職員自宅待機（PCR 検査）利用者の検温開始（毎日）
	25～	新潟医療福祉大学介護実習 3 名受け入れ（9/9 まで）
9	7	天井、壁面清掃
	9	庄瀬小学校 4 年生交流会（オンラインにて）
	13	給湯配管工事
	19	AM 敬老会（特養）、PM しなの園祭り（施設内）
	22	衛生委員会（産業医水戸部先生出席、職場環境視察及び指導）
	24	庄瀬小学校 4 年生交流会（オンラインにて）
10	8	貯水槽清掃、特養で疥癬発生
	10	給食デザートバイキング（SS）

月	日	動　　き
10	11	水質検査
	13	給食デザートバイキング（特養）
	14	庄瀬小学校４年生交流会（オンラインにて）
	22	水害対策訓練（図上訓練）
	26	第３回理事会、第２回評議員会、第４回理事会・表彰式、空調切り替え
	29	庄瀬小学校４年生交流会（オンラインにて）
11	1	ショートステイ特養転換（特養 80→90 名、ショートステイ 20→10 名）
	11	庄瀬小学校４年生交流会（オンラインにて）
	19	新潟南消防署立ち入り検査
	24	イベント食・握り寿司（日清医療食品様協力）
12	3	みかん・りんご寄贈（南区社協を通して）
	10～11	床面ワックス清掃
	12	浴室清掃
	27	害虫駆除
1	27	新潟市介護保険システム端末入れ替え
	30	介護福祉士国家試験
2	1～	新型コロナウイルスワクチン３回目接種開始
	2	SS 利用者１名が他事業所での新型コロナウイルス濃厚接触者として緊急退所
	3	SS 班の利用者４名、SS 班職員に対して抗原検査実施→全員陰性
	4	2/2 に緊急退所された方の新型コロナウイルス感染が判明 新潟市保健所の指示により、2/9 までショートステイ休業
	7	新型コロナウイルス濃厚接触者として職員１名、利用者２名が PCR 検査受ける
	8	全員陰性を確認
	10	ショートステイ再開
	15～	新潟医療福祉大学介護実習２名受け入れ
	17	大雪にて除雪依頼
	21	介護職員１名の新型コロナウイルス感染判明、施設内クラスター発生（利用者 12 名、職員７名）ショートステイ、デイサービス休業（3/13 まで） 介護実習中止 （詳細は別紙参照）
3	7	新型コロナ感染者（利用者）の感染終息、隔離解除
	8～	特養利用者通常生活に戻る、デイサービスフロアの消毒・清掃作業
	14～	ショートステイ、デイサービス再開
	17	第２回防災訓練（夜間想定）
	18～	新潟医療福祉大学介護実習再開
	24	第５回理事会
	31	介護職員定年退職１名
○ニラク様よりお菓子等寄贈		

第２．総 務 部 門

１．総務部門の活動状況

□利用者の処遇向上

・居室やトイレなどの排水パイプ、厨房の水道管など老朽化が目立つ箇所は業者に確認してもらい随時修繕をした。

□リスクマネジメント

・2 月の新型コロナウイルス感染によるクラスター発生時には、毎日の抗原検査実施、体調観察、手指消毒の徹底、施設内外における行動制限など特別感染症委員会の会議を通して周知徹底した。

□法令遵守

・特養の加算について算定ミスがあり、同月処理で対応した。また、利用者への返金については 12 月請求分で相殺処理をした。

・令和 3 年度特別養護老人ホーム転換事業に申請をし、採択される。11 月よりショートステイ 20 床のうち 10 床を特養転換するため手続きを行った。

□職員の技術・知識の向上

・状況に合わせて利用者家族や来客の窓口対応、電話対応など臨機応変に対応した。

□地域交流と貢献

・南区支え合いのしくみづくり事務局継続。

・福祉車両の活用による移動支援の体制づくり。

□人財の確保・定着

（入退職状況）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	計
採用	－	－	－	2	－	－	2
退職	1	－	－	2	－	－	3

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
採用	－	－	－	－	1	2	3
退職	－	－	－	－	－	1	1

・採用：介護支援専門員（特養）1 名　洗濯パート職員 2 名
　　介護職 1 名（パート）　嘱託運転員 1 名

・退職：介護職 3 名（正職 1 名、パート 1 名、定年退職 1 名）看護職 1 名（パート）

・派遣介護職 6 名（3 月末現在）

・育休職員 1 名（令和 4 年 4 月 1 日より復帰）

・休職 1 名
　　※令和 4 年 4 月 1 日現在、派遣含む介護職 49 名（令和 3 年 4 月：49 名）

・2021 年度有給休暇取得率：60.2%（平均付与日数：17 日、平均取得日数：10 日）
（前年度比：▲1.4%）

□　経費節減

・設備については大きく費用のかかる修繕もなく、必要最低限の支出に抑えたが、水道管の老朽化が進んでおり、その都度継続的に修繕が必要。

・2 月の新型コロナウイルスによるクラスター発生時には必要な物品の購入、職員の残業代、ホテル宿泊代など予定外の出費となった。（県に補助金申請予定）

第３．介護老人福祉施設事業

１．令和３年度重点実施事項

○利用者の処遇向上

・利用者の身だしなみを整えることに職員間で意識の統一ができず、業務内容に位置づけ取り組んだが、特に居室安静者には行き届いていなかった。
・今年度も感染症対策のため、利用者には年中施設内で過ごすことになってしまった。そこで、季節を感じさせる壁画等を利用者と一緒に作成し飾ることで喜ばれる方もいられた。
・全利用者の定期カンファレンス実施を定着させ、利用者の今の状態に見合ったケアを統一し行うことで、利用者の生活機能の維持に努めることができた。
・終末期において経口摂取が続けられるよう多職種が連携し看取りケアができた。また、逝去されるまで褥瘡（床ずれ）をつくらず、ご家族から感謝をいただくこともあった。

○リスクマネジメント

・骨折事故や利用者がタンスの下敷きになるという重大事故が発生した。振り返ると、利用者の様子がいつもと違うことから予測できる範囲の介護事故だった。
・誤嚥事故、服薬の確認不足により薬が落ちていたこと等、業務の焦りからくるミスが昨年度より増加した。
・4月、10月に疥癬（皮膚感染症）が蔓延し、職員の感染もあり不安もあった中、皮膚科医と連携し根絶に取り組んだ。今後の再発防止において具体的な対策の検討を行ってきた。
・家族からの要望の多い面会について、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、臨機応変にオンラインまたは対面での面会を実施することができた。
・2～3月にかけ特養利用者12名と職員7名が新型コロナウイルスに感染した。利用者に重篤な症状はみられなかったが、全利用者が居室対応となり生活機能が低下した方もいられた。

○職員の技術・知識の向上

・介護リフトの使用について定着してきている。今後も利用者、職員とも負担の少ない介護に努めていく。
・看護師と介護士が連携し、共に喀痰吸引や医療についての知識を高めることができた。
・グレーゾーン（不適切なケアに関わること）について職員間での意識が高まり、利用者の行動を制限しないよう、リスクとの両面で考えていけるようになってきている。
・利用者の退所後に、お見送りアンケートを通じて看取りケアの振り返りができている。看取りケアについては職員それぞれの想いがあり、一般化しないよう意識の統一を図っている。

○稼働率の維持・向上

・目標稼働率98%・・・実稼働率93.9%（利用実績、入退所状況参照）
・11月よりショートステイ10床を特養転換した。
・年間退所者数32名（過去最多）となり稼働率が低下した。
・新たに科学的介護推進体制加算（Ⅱ）を新たに算定した。今後のケアにつなげていく。
・口腔衛生管理加算（Ⅰ）を誤って算定してしまい、過誤請求し返金を行った。

2．業務実施状況

【利用実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	2,347	2,411	2,298	2,358	2,408	2,356	2,435	2,410	2,527	2,525	2,328	2,429	28,832
稼働率	97.8%	97.2%	95.8%	95.1%	97.1%	98.2%	98.2%	89.3%	90.6%	90.5%	92.4%	87.1%	93.9%

・11 月より定員 90 名として算定しているため、稼働率においては変動を示す。
・延べ人数 28,832（特養転換前、前年 28,727）と若干向上。

【入退所状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所	2人	0人	5人	4人	2人	0人	1人	5人	3人	3人	4人	0人	29人
退所	2人	3人	6人	2人	0人	1人	2人	1人	2人	3人	4人	6人	32人

・入所者数 29 名（前年 17 名）、退所者数 32 名（前年 14 名）、入院者数 7 名。
・新型コロナウイルスワクチン予防接種後（6 月、2～3 月）に退所者（逝去）が多い傾向。
・園内の新型コロナウイルス感染にて、3 月は入所受け入れができなかった。

【要介護度別実利用者数】

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計	平均介護度
R3.3	0人	2人	22人	27人	29人	80人	4.04
R4.3	0人	2人	20人	36人	24人	82人	4.00

【入所申込み状況】

R3.3	175人
R4.3	72人

・入所されたことで生活環境が整い、要介護度が改善される方もいられた。
・入所申込みの現況調査を実施したところ申込み者は減少している状況。

第４．短期入所生活介護事業

１．令和３年度重点実施事項

□利用者の処遇向上

・モニタリング担当職員が中心となり、毎日のミーティングで情報共有と状態変化に合わせたサービス内容の検討を行った。利用者毎にサービス内容等をまとめた情報ファイルを作成することで職員間でしっかりと情報共有が行えるようになった。
・機能訓練指導員と連携し、利用者の状態に合わせた生活リハビリや介助方法の検討･変更が迅速に行えた。また、個別リハビリ希望の利用者には機能訓練指導員より対応出来る範囲で実施してもらった。
・利用者の食事状況や嗜好を観察し、管理栄養士と相談しながら利用者一人一人に合わせた食形態の変更などが行えた。

□リスクマネジメント

・受診を要する重大事故はなかった。ヒヤリハットや事故の要因分析や対策についてはミーティングを活用して迅速に行えた。対策の振り返りを定期的に行い、大きな事故にならないよう振り返りの重要性を意識付けして再発防止に努めた。
・感染症対策を徹底して行った。特に新型コロナウイルス感染症については最新の注意を払い、陽性者発生の時には保健所の指示に従って迅速に対応することができた。
・意見要望については真摯に受け止め、対策を検討して再発防止に努めることができた。
・状況の変化に合わせて、シフト変更や業務分担を行い、安定したサービス提供が行えた。

□職員の技術・知識の向上

・接遇を意識して職員同士声を掛け合い、丁寧な対応に努めているが、業務が集中している時間帯や利用者の状況により、ゆとりがない対応となることがあった。稼働率の向上のためにも接遇力の向上に努めていく必要がある。
・利用者の疾病や服薬について医務と連携し、状態変化を共有しながら適切に対応できた。

□稼働率の維持・向上

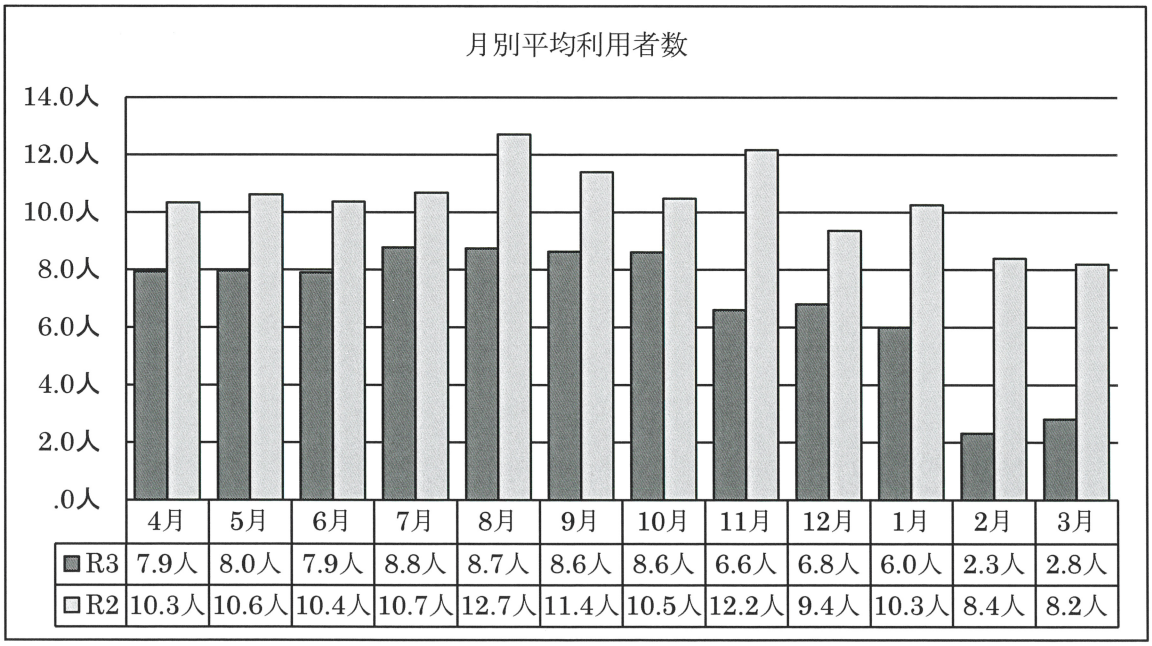
・目標稼働率 80%　→　実稼働率 43.8%
・令和３年 11 月に 20 床中 10 床を特養転換した。
・令和４年２月にショートステイ、３月に特養で新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生したことで休業となった時期があり、稼働率が大幅に減少した。2 回の休業をきっかけに感染リスクを心配し、定期利用を取りやめた利用者もいる。
・緊急入所や入退所者が多い時も臨機応変に受入･対応することができた。
・対応を十分に検討し、医療依存度の高い利用者の受け入れが行えた。

２．業務実施状況

【利用実績】

	令和3年度　利用内訳					令和3年度	令和2年度
	利用人数	延べ人数	1日平均	新規利用者	送迎件数	稼働率	稼働率
4月	23人	238人	7.9人	0人	153件	39.7%	51.7%
5月	25人	247人	8.0人	3人	152件	39.8%	53.1%
6月	28人	237人	7.9人	4人	153件	39.5%	51.8%
7月	32人	272人	8.8人	4人	164件	43.9%	53.4%
8月	26人	271人	8.7人	2人	155件	43.7%	63.5%
9月	28人	259人	8.6人	1人	148件	43.2%	57.0%
10月	29人	267人	8.6人	2人	163件	43.1%	52.4%
11月	23人	198人	6.6人	0人	136件	66.0%	60.8%
12月	22人	211人	6.8人	2人	121件	68.1%	46.8%
1月	19人	186人	6.0人	1人	112件	60.0%	51.3%
2月	14人	65人	2.3人	0人	47件	23.2%	42.0%
3月	13人	87人	2.8人	1人	53件	28.1%	41.0%
合計	282人	2,538人	-	20人	1,557件	-	-
平均	24人	212人	7.0人	2人	130件	43.8%	52.1%

【月別平均利用者数】



【要介護度別実利用者数】

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和3年3月	0人	1人	2人	4人	3人	1人	2人	13人
	0%	8%	15%	31%	23%	8%	15%	100%
令和2年3月	0人	0人	4人	11人	2人	6人	3人	26人
	0%	0%	15%	42%	8%	23%	12%	100%

第５．通所介護事業

１．令和３年度重点実施事項

□利用者の処遇向上

・連絡会議、介護ミーティングの定期開催ができなかった。
・大幅に拠点レイアウトを整備して利用者の居心地などに配慮し、動線も見直した。
・大型テレビの導入により機能向上体操の種類を増やすことで内容を充実させた。
・一日を通じて、手作業や体操、レクリエーションに加え、利用者の趣味活動を含めた好みの選択が可能な活動を準備し、提供できた。

□リスクマネジメント

・ヒヤリハットを見逃さず、適宜ミーティングを行い対策することで、介護事故の件数も少なかった。送迎に関しても、運転者で危険箇所などを共有し、安全運転を心掛けた。
・感染対策では、利用者のマスク着用、管理方法も検討し、フロア内の座席や浴室脱衣場のソーシャルディスタンスの確保に努めた。

□職員の技術・知識の向上

・リハビリについて、多職種で連携して取り組めるようになり、退院後の利用者の在宅復帰へ向ける意識づけができた。
・特殊なケースについてもケアマネと多職種間で密に連携を図り、共通認識を深め、対応した。
・新採用職員から看護職員までオンライン研修に参加し、業務へ繋げられる知識を深めた。

□地域交流と貢献

・交流活動制限のなか、地域の小学生とオンライン交流会を開催。
・希望者のみの企画では、テイクアウト弁当を利用し、食事会を行った。
・介護予防（事業対象者）の利用者が、利用日でない日に芋掘りボランティアとして参加した。

□稼働率の維持・向上

・通所目標稼働率 85%・・・実績稼働率 65.7%（1 日平均人数 19.7 人）
・8 月より人員基準を満たせず中重度ケア体制加算を算定できなくなった。
・介護予防通所介護相当の利用者が増加傾向で軽度利用者が多く、収入アップには繋がらなかった。また、下期から入院者が増加し、昨年度よりも稼働率が下回った。
・特養における新型コロナウィルス感染対応で事業の休止があり、稼働や収入の部分で大きな影響がでた。それに伴い、サービスの調整を依頼するなど利用者に迷惑をかけた。
・新型コロナウィルス感染対応の休業をきっかけとして、数名の利用者が一時的に 3 月末まで他事業所を利用するため異動した。
・利用者、家族のニーズに合わせて、医療依存度、介護度の高い利用者や個別の時間対応にも柔軟に受け入れた。
・お試し利用をされた方を定期利用に繋げるためケアマネへの情報提供の方法を見直した。

２．業務実施状況

【通所介護・介護予防通所介護相当】

	実利用数	通所延べ利用者数	予防延べ利用者数	稼働日数	１日平均	新規利用		稼働率	
						R3年度	R2年度	R3年度	R2年度
4月	67人	331人	149人	22	21.8人	4人	0人	72.7%	75.0%
5月	66人	314人	130人	21	21.1人	1人	0人	70.5%	74.4%
6月	67人	326人	141人	22	21.2人	0人	0人	70.8%	74.2%
7月	68人	356人	122人	22	21.7人	1人	1人	72.4%	76.5%
8月	66人	343人	114人	22	20.8人	0人	4人	69.2%	75.7%
9月	63人	367人	115人	22	21.9人	0人	1人	73.0%	79.5%
10月	64人	343人	109人	21	21.5人	1人	0人	71.7%	80.3%
11月	65人	366人	124人	22	22.3人	2人	1人	74.2%	81.6%
12月	65人	344人	110人	23	19.7人	1人	2人	65.8%	81.6%
1月	58人	301人	102人	21	19.2人	2人	3人	64.0%	66.8%
2月	55人	206人	73人	20	14.0人	2人	1人	46.5%	74.8%
3月	52人	180人	76人	23	11.1人	1人	0人	37.1%	73.9%
合計	756人	3,777人	1,365人	261	19.7人	15人	13人	65.7%	76.3%

【要介護度別実利用者数】

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和3年3月	4人	8人	15人	14人	14人	5人	4人	2人	66人
	6%	12%	23%	21%	21%	8%	6%	3%	100%
令和2年3月	6人	3人	11人	14人	21人	8人	1人	1人	65人
	9%	5%	17%	22%	32%	12%	2%	2%	100%

※新型コロナウィルス感染対応による休業日数

【2月】　2月22日～2月28日日（5日間）

【3月】　3月1日～3月13日（9日間）

第６．居宅介護支援事業

１．令和３年度重点実施事項

□利用者の処遇向上

・本人のできること・やりたいことを丁寧に聴き取り、アセスメントを行った。また、ケアプラン様式が変更となり、利用者、家族の意向を踏まえたアセスメント結果を明示することができた。
・１人暮らしの利用者など、必要に応じ、地域の方々や民生委員との連絡・連携が強化できた。
・医療ニーズがある場合は、本人の生活スタイルや家族の介護力を踏まえ、在宅における病状管理方法を関係者とともに検討し、本人らしい生活が継続できるよう連携した。

□リスクマネジメント

・利用者や家族、関係者からの相談に対し適宜対応、調整を行い、生活や支援の混乱はなかった。
・新型コロナウイルス感染拡大の影響として、利用者側からの利用キャンセルだけではなく、サービス事業所の休業が長期にわたり発生した。利用者や家族への生活状況の確認、他のサービス調整、サービス担当者との連携を図り対応を行った。

□職員の技術・知識の向上

・多職種協働の事例検討会や、サービス事業所と合同企画である認知症ケア研修に参加した。
多角的な視点と合わせ、多職種で連携しながら支援していく方法について学ぶことができた。
・研修や会議のリモート開催が増えているが、システムの活用技術も習得し、スムーズに参加できるようになった。

□地域交流と貢献

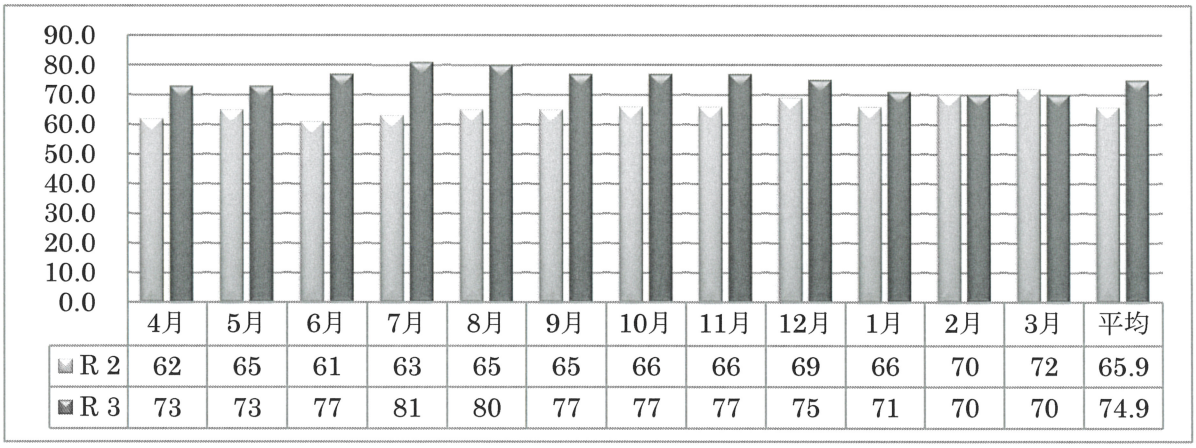
・南区居宅連絡会の活動はコロナ禍で縮小されているが、事務局として定期打ち合わせへ参加し、意見交換や課題について話し合うことができた。
・南区サービス事業所との合同研修会の運営に参画した。
・外部居宅介護支援事業所の事業縮小にあたり、利用者の受け入れ（引き継ぎ）を行った。

□稼働率の向上

・目標レセプト件数　68件／月　→　実績　74.9件／月（解約者　17件、新規利用者　26件）
・2人体制が確立し新規利用者は積極的に受託。ケアマネ1人あたりの担当件数37.5件／月（令和2年度33件／月）と大幅に増加させることができた。
・関係機関からの紹介が多く、受託を断ることが少ないことから相談窓口として周知されたと思われる。また、解約者が少なかったことも担当件数の維持に繋がった。
・認定調査も同様に外部からの依頼を全て受託し、件数増加に繋げた。

2．業務実施状況

【実績件数】



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R 2	62	65	61	63	65	65	66	66	69	66	70	72	65.9
R 3	73	73	77	81	80	77	77	77	75	71	70	70	74.9

（その他）

・認定調査件数　R3 年度　70 件／年（R2 年度　32 件/年、R1 年度　97 件/年）

【介護度別利用者状況（件数）】

	事業対象者	要支援 1・2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
R 2年3月	0(0%)	21(29%)	17(24%)	18(25%)	6(8%)	8(11%)	2(3%)	72
R 3年3月	0(0%)	15(21%)	27(39%)	15(21%)	7(10%)	4(6%)	2(3%)	70

【地域別利用者状況（件数）】

	新飯田	茨曽根	庄瀬	小林	町部	臼井・白根北	味方・月潟	区外	計
R 2年3月	16(23%)	11(15%)	26(36%)	5(7%)	8(11%)	1(1%)	2(3%)	3(4%)	72
R 3年3月	15(21%)	8(12%)	31(44%)	4(6%)	7(10%)	1(1%)	2(3%)	2(3%)	70

【新規利用者相談経路（件数）】

	本人	家族	地域包括支援センター	医療機関	他機関	計
R 2年度	0(0%)	4(13%)	20(65%)	4(13%)	3(9%)	31
R 3年度	0(0%)	4(15%)	13(50%)	4(15%)	5(20%)	26

第７．社会福祉法人しろね福祉会（管理運営部門）

１．理事会、評議員会の開催状況

区分	日時・会場	事　　項
第１回 理事会	令和３年６月８日(火) 午後１時30分～ しなの園	１．令和２年度事業報告について ２．令和２年度収支決算報告について ********** 監査報告 ********** ３．令和３年度社会福祉充実計画について ４．令和３年度第１回評議員会の招集について ５．役員等候補者の推薦（案）について
第１回 評議員会	令和３年６月22日(火) 午後１時30分～ しなの園	１．令和２年度事業報告について ２．令和２年度収支決算報告について ********** 監査報告 ********** ３．令和３年度社会福祉充実計画について ４．理事及び監事の選任について
第２回 理事会	令和３年６月22日(水) 午後３時00分～ しなの園	１．理事長選出について
第３回 理事会	令和３年10月26日(火) 午後２時00分～ しなの園	１．令和３年度上半期事業実績報告について ２．特別養護老人ホーム規則の一部改正（案）について ３．介護老人福祉施設運営規程の一部改正（案）について ４．短期入所生活介護及び介護予防短期入所生活介護運営規程の一部改正（案）について ５．役員等の退任について ６．役員等候補者の推薦（案）について ７．令和３年度第２回評議員会招集について
第２回 評議員会	令和３年10月26日(火) 午後３時00分～ しなの園	１．役員(理事)の選任について
第４回 理事会	令和３年10月26日(火) 午後３時30分～ しなの園	１．理事長選出について
第５回 理事会	令和４年３月24日(木) 午後２時00分～ しなの園	１．令和３年度第一次補正予算（案）について ２．令和４年度事業計画（案）について ３．令和４年度収支予算（案）について ４．職員給与規程の一部改正（案）について

２．防災訓練実施状況

区　　分	第　1　回	第　2　回
訓練の区分	消防計画に基づく総合訓練（昼間）	同　　左（夜間想定）
実施の日時	令和３年７月 15 日（木） 14 時 00 分～14 時 20 分	令和４年３月 17 日（木） 14 時 00 分～15 時 00 分
実施の場所	調理室からの出火を想定し、正面玄関に避難	夜間洗濯室からの出火を想定し、ボランティアステーションに避難
訓練参加者	職員（22 名）　利用者（30 名）	職員（16 名）　利用者（10 名）
避難訓練内容	①火災受信機により火災発生区域の確認 ②消防署への 119 番通報 ③施設内への避難放送 ④利用者の避難誘導 ⑤避難用テント組立説明	①火災受信機により火災発生区域の確認 ②消防署への 119 番通報 ③施設内への避難放送 ④利用者の避難誘導 ⑤反省と自家発電機についての学習
講評・反省等	・調理室からの出火で避難場所までの距離が遠く時間がかかった。 ・消火器や防火扉の前に椅子などが置いたままになっており、業者から指摘を受けた。 ・通報の際、警報音の方が大きく消防本部の声が聞き取りづらかった。 ・初期消火の際の職員への指示や避難誘導の声掛けが遅く、避難が遅れた。	・声を掛け合うことでスムーズに利用者の移動ができた。 ・火元から遠くへ離すことを最優先に考えなければならないと思った。 ・二人一組としてペアで動く事ができていた。 ・自家発電機については、操作方法の振り返りができた。定期的に動かすことが必要。
その他 （防災訓練）	・避難テントは屋外に避難する際、日よけや雨よけで必要となる。簡易的なテントなので組立てが簡単。	・消防設備業者の指導のもと、通報装置の操作方法と火災報知器の停止手順を説明。

３．研修参加の状況

【外部研修】

	研　修　名	研修期間						参加人数	日数	延べ人数
		年	月	日	～	月	日			
1	高齢者虐待防止研修	3	5	26				1	1	1
2	安全対策体制加算対応-リスクマネジメントWeb研修会		7	2				1	1	1
5	甲種防火管理新規講習		7	29	～	7	30	1	2	2
3	安全対策体制加算対応-リスクマネジメントWeb研修会（第三弾）		8	10				1	1	1
6	地域福祉コーディネーター育成研修		8	25	～	8	26	1	2	2
4	新潟市要介護施設・要介護事業所管理者向け高齢者虐待防止研修会		9	6				2	1	2
8	事故防止体制再構築の具体策		9	9				1	1	1
7	新潟市給食施設指導会		9	28				1	1	1
9	令和３年度「新型コロナウィルス感染症対策研修会」		9	29				1	1	1
11	県老施協令和３年度総務委員会企画研修		11	11				1	1	1
10	介護職員（等特定）処遇改善活用セミナー		12	9				1	1	1
13	外国人介護職員受入セミナー	4	1	24				1	1	1
17	令和３年度LIFE（科学的介護情報システム）研修会		1	26				1	1	1
16	おやつに使える嚥下食調理実演セミナーⅡ部		1	27				1	1	1
15	学科分類2021（食事）を徹底解説		2	10				1	1	1
12	2021年度社会福祉士実習指導者講習会		2	11	～	2	12	1	1	1
18	新潟県の高校生就職の現状と採用戦略		2	14				1	1	1
14	学科分類2021のコードに即したお粥を徹底解説		2	24				1	1	1
								19	20	21

【内部研修】

	研　修　名	研修期間						参加人数	日数	延べ人数
		年	月	日	～	月	日			
1	倫理・プライバシー	3	4	12				10	1	10
2	感染症①（食中毒）		5	10				7	1	7
3	看取り（基礎編）		6	7				7	1	7
4	褥瘡について		7	12				9	1	9
5	リスクマネジメント①		8	16				10	1	10
6	感染症②（インフルエンザとノロウィルス）１回目		9	13				6	1	6
7	感染症②（インフルエンザとノロウィルス）２回目		9	27				7	1	7
8	浮腫について（医療知識）		11	8				7	1	7
9	身体拘束・虐待①、リスクマネジメント②		12	13				5	1	5
10	看取り（応用編）	4	1	17				6	1	6
11	身体拘束・虐待②		2	14				8	1	8
								82	11	82

（研修参加の状況）

外部研修については、ごく一部を除いて全てYouTubeやZoomを使ったweb研修が多く、自施設内で受講できるため参加しやすかった。内部研修は昨年度同様に月１回の研修としたが、10月は蔓延防止措置（12月に繰り越し）、３月は新型コロナウィルス感染者対応のため中止とした。

4．実習生受け入れ状況

介護の学生が年々減少している中、学校からの依頼や実習人数も減少傾向にある。また、新型コロナウィルスの影響により受入可能施設も激減しており、その中で依頼のあった学校は全て受け入れた。2 月の介護実習については実習途中、施設内でクラスターが発生し一時休止としたが、学校と相談しサービス再開に合わせて 3 月中旬より実習を再開することができた。(4/6 で実習終了)

【月別実習人数】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
実習人数	0	0	0	0	5	0	0	1	0	0	2	1	9
延べ日数	0	0	0	0	84	0	0	7	0	0	44	12	147

【種別】

実習名	人数	延べ日数	実習依頼校・団体
相談援助実習	2	48	新潟医療福祉大学 国際こども福祉カレッジ
介護実習	3	92	新潟医療福祉大学
介護員養成科実習	1	7	介護労働安定センター
計	6	147	

【年度別推移】

年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
延べ日数	118	75	82	91	60	147

5．事故、苦情発生状況

（1）事故状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件数	8	4	11	11	17	12	10	22	12	11	13	8	139

【事故別】

	特養	ＳＳ	ＤＳ	合計
転倒・転落	43	4	3	50
介助ミス	16	0	1	17
異食	10	0	0	10
誤薬	5	1	0	6
誤嚥	6	0	0	6
その他	49	1	0	50
合計	129	6	3	139

【受傷別】

	特養	ＳＳ	ＤＳ	合計
痛み	14	1	0	15
表皮剥離	27	0	0	27
切り傷・裂傷・擦傷	18	0	1	19
腫張	2	0	0	2
皮下出血	7	0	0	7
骨折	1	0	0	1
その他	6	0	0	6
異常なし	59	5	2	66
合計	134	6	3	143

骨折事故は 1 件あり、それまで自立していた利用者自らの転倒ではあったが、冬場になると利用者の動作に影響するため事故が多くなる傾向。その時期に研修会を実施し職員間に注意喚起を行っている。また、いつの間にか傷をつくっていた出来事が多く、普段の介護方法について不備（力を加えすぎて）はいなかったかと検討を行っている。

（2）苦情（意見・要望等）

苦情（意見・要望等）受付状況は、昨年度と比較すると 5 件減少した。適切な対応をしている結果も考えられるが、新型コロナウィルス感染拡大防止の為、来園を制限したことでサービスを直接目にすることがなくなったことも減少の要因と考えられる。特養では利用者が身に付ける精密機器に対する取扱い方、在宅サービスについては特養入所予定者の家族に対する説明のしかたや配慮に欠けていた。

【苦情受付状況】

	特養	SS	DS	居宅	他	合計
2021 年度	2	1	0	1	0	4
2020 年度	1	2	2	4	0	9
2019 年度	5	0	0	1	0	6
2018 年度	2	1	8	11	0	22

【苦情内容】

	特養	SS	DS	居宅	他	合計
職員の対応	1	0	0	0	0	1
ケアの内容	0	0	0	0	0	0
施設設備	0	0	0	0	0	0
そ の 他	1	1	0	1	0	3
合 計	2	1	0	1	0	4

（1 件の申し出に複数の内容あり）

【申出人状況】

	特養	SS	DS	居宅	他	合計
本 人	0	0	0	0	0	0
本人以外	2	1	0	1	0	4
その他	0	0	0	0	0	0
合 計	2	1	0	1	0	4

6．ボランティア受け入れ状況

今年度は新型コロナウィルスの感染拡大防止の為、年間を通してボランティアの活動は中止とした。